馬町爆撃を語り継ぐ会　第二回会合

2012年1月16日を踏まえて

C：最初に修道自治連合会会長のハマダから一言挨拶を頂きまして、スタートしたいと思います。よろしくお願い致します。

H：こんばんは。お忙しいところお集まり頂きましてありがとうございます。1月の１６日に第一回の馬町爆撃を語ろうという会を開催しまして、80名あまりの方に参加して頂き、その後アンケートもまた、70数名の方にお答え頂きました。誠に感謝しております。ありがとうございます。これを機会にどのような形でこの語ろう会を続けていこうかということを事務局とも話していたんですけども、やはり皆さんもいろいろとお考えをお持ちでしょうから、そういった方々のご意見もお伺いしながらこの会を発展させていこうということになり、今日こうしてお集まり頂くことになりました。どうぞ、忌憚のない意見をよろしくお願い致します。

C：（ビデオ撮影、文字起こしの了解。トイレの案内）それでは挨拶のあと、１８時４５分から２０時まで座談会ということでいろんなご意見を伺いたいと思います。そのあと２０時から５０分間、会について皆さんのお知恵を借りたい、この会をどのように進めていくかについての意見をお伺いしたいと思っていますので、よろしくお願いします。それでは最初に本日の資料をまとめていただき、またこの会の発足にあたりまして中心的に動いて頂きました酒谷さんの方から～１月１６日にお出で頂きましてご意見等につきましていろいろ収集して頂きましたけれども～全体につきまして感想等をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

S：こんばんは。ご紹介頂きました酒谷義郎と申します。１月の１６日には寒いなかを９０名近い方にお集まりいただきまして非常に盛り上がった会ができました。それはひとつにはやはり東日本の震災のときに、これより下に家を作るなという石が残っておったところは大分助かっておられるということがありましたから、この爆撃についても何か皆さん方が思っておられることが形として[redacted]１月１６日の集会になったと思っております。それでその集会の後に皆さん方にアンケートをお出しし、後の方で数字は書いておりますが、多くの方がコメントを書いてくださいました。わたしも商売柄いろんな仕事をしておりまして、アンケートも頂きますが、ほとんどそういうようなコメントが書いてあったりご意見があったりということはまれでございました。それで皆さん方の関心が非常にお高いということで、その後の動きには自治連合会等にお話をして今回の会合になったわけです。できるならば、この会は継続的に続けていけたらよい。またもうひとつは、やはりこのような会にこられてお話をしながら、そのお話をわたしたちの子ども、孫に伝えてもらう、これがないと続いていきません。もし孫に伝えてその孫がまた孫に伝えていきましたら、２００年もちます。そしたら、その成果が現れると思いますので、本日そういうふうな形の会であることをお含み頂いてご討議頂けたらと有難いと思います。以上でございます。よろしくお願い致します。

C：ありがとうございました。今日は皆さんのご意見を聞くにあたりましてできるだけ多くの時間をとりたいと思っていますので、わたしがあまりしゃべらないで、みなさんの意見をたくさんしゃべっていただきたいと思っています。ぜひよろしくお願い致します。スタートは、まず馬町の空襲にあたりまして近くに住んでおられました石本さんに最初お願いして、それから話を広げていきたいと思っています。石本さん、よろしくお願い致します。
I：石本でございます。ちょっと座らせて頂きます。わたしがこのような席でお話することになりました経緯について最初にちょっとご説明させて頂きたいと思います。といいいますのは、この爆撃の問題が一番最初にマスコミにとりあげられましたのは～おそらくこれが最初であろうと思うんですけども～、昭和４５年の８月１５日付の京都新聞に、こういう記事が載っております。この記事、京都新聞社に「名前を告げぬ初老の人が本社を訪れ、終戦間際に初めて爆撃を受けた京都市東山区」、この一帯でございますね、「この生々しい被災跡の写真 10 枚が入った封筒を届けた」。これが私の知る限りにおいてはマスコミがとりあげた最初の記事だと思います。そして、それ以前はどうであったかと言いますと、当時～爆撃された当時ですね～上馬町の町内会長さんでありまた当時の警防団の世話役、警防団長をしておられたオオノタケジロウさんという方がおられます。この方は資料なども非常に収集されておられた方で、この方が亡くなられるまでは、大野さんはいつもこういうふうな問題についてお話されていたんです。そして大野さんが亡くなられまして、次には山村ヨシアキさんという方が～この自治連合会の会長を長くやっておられた方で、また被災の経験のある方でございますが～、この方がいろいろとマスコミの取材などに応じておられたと思います。ところが山村さんも亡くなられまして、そうなりますと残っているのは誰か、ということで、それやったら石本さんがここで生まれてここに残ってはるんやから、石本さんなら知ってはるんやないかということで、私の方へ取材なんかがあったわけでございます。
わたしは当時１７才でして、空襲警報が出ますと、メガトンをもって「空襲警報！」言うて走り回る役をやらされていたわけですが、所詮私一人の経験というものはごく狭い範囲のことしかありません。あとでまあいろいろ考えてみて、これもひとつのご縁かなと思いました。亡くなった方々のなかにはわたしの同級生もおりまして、知り合いの方も沢山おられます。そういう方の鎮魂の意味もあり、これもわたしの責任かな、と思ってぼちぼちと調べ出したようなことでございます。
わたしが知っております範囲内では、今申しました４５年８月１５日の京都新聞の記事のあとには、５４年の１１月の９日に同じく京都新聞「京のこぼれ話」という囲み記事が載っております。それからはもうずっと飛びまして、平成の１１年の８月の１８日に朝日新聞の京都発２１世紀という～これは継続記事でございますけども～、このなかの第４部に、平和をつなぐというところに山村ヨシアキさんと今西スミさんという方のお話が載っております。それから飛びまして２２年の８月の３日、このとき京都新聞にはアメリカからの新しい資料が見つかったということでわたしの方へ取材がありました。それが新聞に載り

ました後で読者からの反響が大きかったということで、続いて８月８日にこれに関する記事が載っております。お名前を出していいかどうかわかりませんけども、そのときに京都新聞とご一緒にこの件を非常に詳しく調べておられます～こちらにお出でになっておりますフクバヤシさんという方ですけども～、この方がご一緒にお出でになられまして、わずかに残っております爆撃の跡を見て回ったようなことでございます。
その後わたしも、これはもうお話する以上はいい加減なことを話すわけにはいかないと思いまして、馬町の爆撃に関する出版物を少し調べてみたんですけども、一番最初にこの件について出版されましたのは、１９７４年、昭和４９年、「隠されていた爆撃」[redacted]、こういう本が汐文社というところから出版されております。京都空襲を記録する会というところから出版されたものでございますけども、これは宗教団体が主になりまして、いろいろと被災された方々に取材というんですか、聞き書きをしたようなものです。それから昭和５０年に三省堂という出版社から「日本の空襲」という全集が 10 巻出まして、その第６巻が近畿編。これにも相当の記事が載っております。それから平成８年に「語り伝える京都の戦争２」という、これは久津間保治という方が出版されておるわけですけども、この出版元は京都新聞でございまして、ご記憶の方もあるかと思いますが、防人の歌という連続記事が一年ほどの間にわたって写って[redacted]おります。このときは、聞き書きというんですか、この久津間さん始めスタッフの方がずいぶんと沢山の方にお会いになって、生々しいお話を聞いておられることが載っております。それから１０年には「戦争のなかの京都」という～これは岩波のジュニア版の新書でございますけども～、これが一冊出ております。わたしが知っておる範囲内ではそれだけが出版された本です。実はこの「隠された空襲」という、一番最初に出版された本は、私も現物を見たことなかったんで、図書館で調べてもらいましたら、京都市の中央図書館に一冊だけあると。あとは府立の資料館にしかないということで、このあいだ行って参りましたら、これは持ち出し禁止の本ですので、向こうでいろいろと確認してきたわけです。そのときにたまたま「京都はなぜ空襲されなかったのか」という本が見つかりまして、これは持ち出しできたので、今借りてきて読んでいる最中です。そのほかには、公文書としましては、松原の警察署が爆撃の後に被害状況、それから警防団、警察、消防、それに関するような報告書のようなものが残っております。一番最初に申しました昭和４５年の８月の１５日に京都新聞に写真を持ち込まれた方はミヤガワトモジさんという方でございまして、写真を撮られた方は当時上馬町に住んでおられましたミヤガワテツヤという。この方はプロの写真家であったと聞いておりますけども～富士山の写真とかを沢山撮っておられた方やそうですが～、この方が警察の依頼を受けて被害状況を撮られた写真～もちろんその当時のことですから、絶対に被害状況の写真、爆撃に関する情報を漏らしてはならない、ということで、その写真は没収されたはずなんですけども、どういうわけかそれが一部残っております。で、ミヤガワさんが同じミヤガワ、ミヤガワトモジさんという方にそれを託されまして、ミヤガワトモジさんが京都新聞の方へ、自分が持っていても仕様がないので京都新聞の方で保存

してくれ、と。これがその新聞写真。それから今お手元にお配りしました資料の写真もこの写真でございます。これ、１４枚ほどあるんですけど、その後、ミヤガワトモジさんが亡くなられましたときに、ご縁があって、これを誰かに引き継いでもらいたいということで、ご遺族の方がわたしのところにもってみえまして、まあ、ミヤガワさんとは心やすかったんで、石本さん、預かってもらえんか、ということで、私の手元にそれがございます。その現物がこれなんですけども、そのなかから撮られた写真がその後の新聞、雑誌、その他にすべて、撮られたものはここから出ているわけです。

これを元にしましてわたしもその当時、住んでおられた方の傷、それから爆弾が落ちたと思われるところ、そういうところをずっと調べてみたんですけど、なかなか現実と合わないんですね。で、一番最初に申しました「隠されていた京都の空襲」という本には亡くなられた方の氏名と年齢が載っております。そのほかの本のなかには全然載っておりませんので、亡くなられた方の氏名を調べようと思いますと、これより他に仕様がないわけです。ところが、私が知っています方もおられますけども、どう、その地図と照らし合わせても、わからない方もおられる。だから、あの、今回のこの機会を得まして、もしもそういうふうなことを、当時、上馬町とか下馬町とか、爆撃のときにおられた方で生存しておられる方、またそういうふうなことをご存知の方、そういう方から私の方にぜひ知らせて欲しいと思っているわけでございます。で、今まで申しました本をずっと調べてみますと、一番最初の「隠されていた空襲」という本に９人の方が手記を残されたり、また新聞社の取材に応じたりしておられます。それからその次の「語り伝える京都の戦争」、この本には、１０人の方がいろいろとお話しておられるわけですけど、そのなかで３人の方は重複しておりますので、結局１７人[redacted]の方が実際の空爆に合った関係についていろいろとお話しておられるわけでございます。

その他にわたしがその後いろいろ聞いておりますのは、その当時、修道小学校の児童であった方たちが～今７８ぐらい、ちょうど酒谷さんと同じぐらいなわけですけども～子供ながらに当時の記憶を生々しく覚えておられる方が多いです。で、今までは、そういうふうな方は表に出てお話される機会がなかったように思いますので、この学校に残っております当時の児童名簿、それを調べてみまして、現在生きておられる方がまだたくさんいると思いますので、そういう方のお話もいっぺん聞いてみたいと思います。それから、亡くなられました方のご遺族、奥さんとかお子さんとか、そういう方でも現在生きておられる方もおられますので、そういう方のお話も聞いて、これをまとめていったらどうかなあ、というのがわたしの考えでございます。

こうしてお話の口火を切らせていただきまして、私が最初に申しましたとおり、自分で経験したことというのはほんの少ししかありません。これは今晩お見えになった方もお聞きになったと思いますが、当日、爆撃があります少し前には地震がありました。これは今の三河湾を震源にした大きな地震で、その余震だったということです。ただその地震の情報は、厳重に外に漏れないようにされてまして、そういう地震があったことさえも京都に住

んでいた我々にはわからなかったわけです。その地震で目を覚まして、「ああ、地震があったな」と寝たところに爆撃があったわけです。で、確かに飛行機の音は聞いた覚えがあります。しかし、それも編隊というよりは、後で聞きましたら、一機しか来ていなかったらしいんで、それが京都の上空を旋回していた音を聞いたんだと思います。それから、まあ、そりゃあもう、表現の仕様のないような大きな音がしました。で、わたしも最初は地震だと思ったんですが、表に出てみましたら、すでに焼夷弾であった、、、と当時は言うておりましたけども、もう火の手があがってました。記憶がはっきりしませんので、表に出たのが爆弾が落ちてすぐであったのか、あるいは１０分くらい時間が経ってたのかわかりませんが、その辺のところがわたしも記憶が定かでありませんが、出たときにはすでに火の手があがっていたことは事実です。京都の空襲についていろいろお話をされておる方の記事を見ましても、表に出たら結構もう火の手が上がってた、、という記事がけっこうございます。で、アメリカの資料では焼夷弾ではない、爆弾であったということですが、爆弾にしてはちょっと火の手があがるのが早かったんではないか、なかには焼夷弾も混じってたんやないかと私は思ってるわけです。

それから、もちろん私も火を消す方のお手伝いに行っておりまして、当時は各町内に手押しのポンプなんかが用意してありまして、それを一生懸命大人の方と二人で水をかけたんけども、今思うと、当日は、どなたも言われるように、非常に寒い夜で、果たして水が凍ってなかったのかどうか、どこから水を持ってきたのか、今でもわたしは不思議に思っているわけです。ただあの、消防車も相当来ておりまして、火事はだいたい一時間ぐらいで鎮火したように思います。そのあとで、ガス管が破裂した、それがくすぶり出したりした、火が明け方の４時頃になって燃え出した、それをまた消しに行った覚えがございます。ただあの消防車が撒いた水がすぐに凍るような寒い晩で、みんなすべって転んだりしていたのを覚えております。だいたい私がはっきり覚えておるのはそれくらいのことで、この本に載っておりますように、ご自分のご家族が怪我をされて、それを担架に担いで小学校の講堂へ運んだとか、そこでその亡くなられた方は[redacted]の方へ運んだとか、そういうことは私の記憶にはないので、また、そういうふうなことをお聞きになった方がおられましたら、お知らせいただいたら、大変結構だと思います。

こないだ中央図書館に行って借りてきた本～先ほど申しました「なぜ京都は空襲を免れたのか」という本ですが～、これは2007年に出版されている比較的新しい本で、朝日文庫というところで出ていますが、当時京都が爆撃されなかったのは、戦後、京都は文化財が非常に多いのでアメリカも文化財を灰にするのはもったいないというので爆撃を避けたということが通説、定説になっておりますけども、この本によりますと、それは間違いであって、京都は実は原爆投下の目標に入っていたと。目標に入っていた都市は当時、京都、広島、長崎、新潟、その他ありますけども、今資料を見てみますと、不思議なことにこれらの都市については大きな爆撃を受けておりません。受けてないということは、原爆の効果を試すためにこれらの都市には爆弾を落とすなという司令が出ていたということがその本

には書かれております。こういうことを言うと見方はどうしてもふたつあるんで、どちらが正しいかは皆さんのご判断にまかすしかないわけですけども、そういうことで、京都は原爆も落とされなかったし、大量の爆弾も落とされなかった。ま、よかったと言えばよかったわけです。私がこういうことを言うと亡くなられた方には誠に不謹慎なことかもわかりませんが、もうひとつ、私がつくづくよかったなあ、と今になって思うのは、あの時、馬町へ来たB29が一機であったこと、それから新聞なんかには空襲警報も出ていないのにいきなり爆弾落とすとはけしからんというわけですが、爆弾落とす側は警報が出ていようといまいと落とすわけで、もし警報が出て、もっと沢山の方が消火活動とかなんかで表に出ておりましたら、さらに被害がひどかったんではないかと思うようなこともあります。ま、これはどちらが幸いであったかは結果論ですけども。それから、このお手元にある写真のことにつきましては、この写真の説明のところに、現在のどこから撮った写真であるかという説明文が載っております。ところがよく調べてみますと、説明文が書かれたのと写真が撮られた時期とでは時間的にずれがあるように思います。だから、この写真を撮られた時期がわからないので、この写真だけでは現在のどの位置であるかがはっきりわかりにくい。ですので、現在、ここにもお出でになってますけども、当時、向こうに住んでおられた方もおいでになりますので、これはどこから撮った写真じゃないかと教えていただいたら、もっとこの写真の意味も正確にわかるのではないかと思います。私がこの写真が撮られた時期と説明文が違うのではないかと思います原因としましては、この10番ですね、「現在の下馬町サフラン化粧品店南側付近から南西向きに撮影」とあります。ところがあの当時、サフラン化粧品というような化粧品屋さんはなかったわけです。戦争中にサフランという名前をつけるような店が許可されるはずもない。このサフランさんというお店から撮ったという説明文は戦後に書かれたものだと私は思っているわけです。それから、もうひとつ、11番というところに、「下馬町郵便局付近より西向き撮影。当時、市田家、清水家、ここに焼夷弾が落下、全焼した跡」というところがありまして、その向こうに見えておりますのが、修道校の当時の体育館です。ただ、下馬町郵便局付近よりというのが、当時ここには郵便局はなかったわけです。ここに郵便局が出来たのは戦後のことです。だから、これも戦後書いた説明文ではなかろうかと思いますので、その他のところで、どこから撮ったかと、現在はどのあたりかということを、ご承知の方がおりましたら、教えて頂けたら非常に有難いと思います。とりとめのないお話でしたけども、私の方からはこれだけです。もしもこういうことはどうなってたんやろ、というようなご質問がありましたら、私がわかる範囲内でお返事させて頂きたいと思います。これからはみなさんの座談会ということですので、ご意見を聞かせて頂けたら有難いと思います。どうもありがとうございました。

C：ありがとうございました。非常に興味深いお話で、なかなかこういう話を聞く機会はないと思います。この前の１月１６日にもけっこういろんな意見を伺うことができましたけども、なんせ時間が足らないということで、今の石本さんに対する質問でもよろしいです

し、何かご意見を～発声される前に名前を言って頂いて、お願いします。
部外者：私はここに住んでいない部外者なんですがね、京都空襲を記録する会という会が非常によく調べましてね、馬町でもね、死者４１人の名前もほぼ全員出ている。京都府の記録では死者３１人